第40回日本社会学会大会

標記の大会は，昭和42年10月8・9両日にわたり，名古屋大学において開催され，本研究所からは上田正夫（人口移動部長），皆川勇一（人口移動部分布科長），駒井洋（人口資質部資質科）の3技官が出席した．

一般研究報告は基礎理論(1)(2)，家族，地域，産業労働，社会心理・社会意識，集団・組織・リーダーシップ，社会福祉，社会学史，農村，都市，労働・社会運動，社会病理，人口，マス・コミ，教育・社会心理の15部会に分かれ54題の報告があった．またほかに，今年度はとくにテーマ部会が第1日の午後に開かれ，第1部会「現代の社会変動をどうとらえるか」，第2部会「社会変動と現代家族」，第3部会「戦後日本資本主義の地域問題」，第4部会「経営合理化と労働者」，第5部会「社会心理への接近法」，第6部会「組織の比較分析」の六つの部会が持たれ，それぞれ4～5題の報告が司会者の企画編成の下に行なわれ，活発な討論を呼んだことが注目される．本年度のシンポジウムは「大学問題」の検討――現代社会における人間形成の問題として――をめぐり三つの報告が行なわれ，3人の討論者による討論が行なわれた．

一般報告のうち，人口に直接関係のあるものは次の三つであった．

死亡性比の変動について……山本文夫
世界人口の趨勢と日本の前途……西野入徳
社会変動論における人口の問題……富田富士雄

（皆川勇一記）

日本統計学会第35回総会

標記の総会は，昭和42年10月23・24日の両日，神戸大学経済学部において開催された．本年度の共通テーマの一つは J. P. Süssmilch の歿後200年を記念した「J. P. Süssmilch（1706～67）の『神の秩序』(初版)に関する研究」であり，森田優三座長の下に次の報告があった．

松川七郎（はじめに），青盛和雄（その人口増殖および出生性比論），丸山博（その死亡表について），飯淵康雄（その疾病分類について），浦田昌計（その同時代者としての G. Achenwall, 1719～72），松川七郎（要約）

また，これに関連して「統計学史上の Süssmilch」と題する有沢広巳氏の記念講演があった．

共通テーマとして，このほか「金融統計」，「ORにおける統計的諸問題」の2題があった．一般研究報告は合計30題に上ったが，そのうち人口に関連ある報告としては次の3題があった．

農業人口に関する統計的研究……池上一志
人口重心の評価と人口分散度の計測について……鈴木啓祐
正規分布の変換と生物現象……川上理一

（上田正夫記）

第5回日本老年学会総会・第9回日本老年医学会総会・第9回日本老年社会科学会総会

標記3学会総会が昭和42年10月30日から11月1日の3日間にわたり，名古屋市内に在る中日ビル，愛知県医師会館および日本生命ビル内の5会場で開催された．

老年学会総会では，3学会の会長演説，特別講演2題（老化について，老年学の源流），外人招待講演（Dr. N. W. Shock : Current Trends in Biological Research on Aging）およびシンポジウム（老年者とリハビリテーション）が行なわれ，老年医学会総会では，特別講演（老化学説の史的考察）およびシン

ポジウム（臓器機能と代謝からみた加齢）があり，老年社会科学会総会では，特別講演（大道安次郎教授：1億人口の意味するもの——ある社会学者の意見），特別報告（EURAG - ISCA Congressに参加して）およびシンポジウム（老人社会福祉施設の近代化をめぐる問題）が行なわれた．なお，人口問題の研究ととくに関係の深い老年社会科学会では，22題の一般研究発表が行なわれた．そのうち，人口に直接関係のあるものは次のようである．

わが国における老齢人口の推移についての統計的考察……佐　藤　良　也

（山口喜一記）

第22回日本人類学会日本民族学会連合大会

標記の大会は，昭和42年11月11・12両日にわたり，名古屋市の南山大学において開催され，本研究所から篠崎信男（人口資質部長），小林和正（資料課長），青木尚雄（人口資質部能力科長）の3技官が参加して，次の演題による研究発表（いずれも11月12日）を行なった．

日本人の妊娠能力について……青　木　尚　雄

静内地方アイヌ系人口の変遷……小　林　和　正

通婚圏問題に関する考察……篠　崎　信　男

（小林和正記）

第14回国際連合人口委員会

1967年10月30日から11月10日まで，スイス連邦・ジュネーブの Palais des Nations において，国際連合人口委員会第14回会議（14th Session of the UN Population Commission）が開催され，本研究所人口移動部移動科長黒田俊夫技官が日本政府代表代理としてこれに出席した．なお，日本政府代表であり同人口委員会委員でもある舘稔所長は，健康上の理由で参加しなかった．

人口委員会の member country は，前回の第13回 session の18か国よりいっきょに27か国に増加しているが，その結果として低開発国のウェートは著しく増大した．いわゆる先進国は日本を含めて10か国にすぎないが，低開発国は17か国となった．チェコスロバキア，イタリア，ザンビアの3か国は observer として，専門機関および地域経済委員会は5機関が代表を送り，非政府機関としては11機関が参加者を出席せしめた．会議の内容その他詳細については，前掲の資料欄の報告を参照されたい．（黒田俊夫記）

国際家族計画連盟第3回西太平洋地域セミナー

1967年11月20・21日の両日，香港国際家族計画連盟本部において，標記のセミナーが開催された．香港，韓国，日本，沖縄のＩＰＰＦ（国際家族計画連盟）西太平洋地域諸国から数十名の参加者があった．本研究所からも岡崎陽一技官（人口政策部主任研究官）がこれに参加した．

第1日の11月20日は，開会式で始まったが，香港家族計画連盟会長 Professor Daphne Chun の歓迎の辞，地域評議会議長 Dr. C. C. Lee の開会の辞，Mr. K. M. A. Barnett, Commissioner of Census & Statistical Planning の講演およびこれに対する香港家族計画連盟議長 Mrs. H. J. C. Browne の謝辞があった．

第1日の論題は「教育，動機および人口」(Education, Motivation & Population) であって，午前中，Mrs. H. J. C. Browne を座長として，(1) Dr. Robert E. Mitchell (Social Survey Research Centre, The Chinese University of Hong Kong) の家族計画におけるフィールド・ワーカーの役割，(2)岡崎陽